

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所および大阪証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.daiso.co.jp/ (ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合、 日本経済新聞に掲載する方法により行います。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

当社グループをより知っていただくために、インターネットのホームページもご活用ください。

- 最新の情報はこちらでご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.daiso.co.jp/>



トップページ



株主のみなさまへ

第154期 報告書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

化学でもっといいこと。

 **ダイソー株式会社**
DAISO

証券コード 4046 <http://www.daiso.co.jp/>

中期経営計画『GLOBAL GROWTH-10』を推進し、事業の拡大・強化に努めてまいります。



株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、格別のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループは、第154期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)の決算を行いましたので、ここに事業の概況についてご報告申し上げます。

平成21年6月

代表取締役社長 佐藤 存

企業集団の事業の経過およびその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、米国に端を発した金融危機による世界経済の急激な悪化を受け、輸出企業を中心とした大幅な生産活動の縮小や設備投資の減少、さらには雇用・所得環境の悪化から個人消費も冷え込むなど、景気は急速に悪化いたしました。

化学業界におきましても、原油価格の大幅な変動や世界的な需要急減による供給過剰感を背景に、国内外における在庫調整や製品価格の下落が進むなど、経営環境は極めて厳しい状況で推移いたしました。

このような状況下で、当社グループは、中期経営計画『GLOBAL GROWTH-10』の初年度として、パワーチェーン事業の拡大・強化に取り組んでまいりました。

収益力の向上を目指し、事業構造の改革を実施してまいりましたが、無機化学品業界は比較的堅調であったものの、自動車分野、電機・電子関連分野における急激な需要減少により、販売数量が大幅に減少するとともに、円高の影響もありましたので、当連結会計年度の売上高は767億2千6百万円と前期比1.9%減少いたしました。一方、利益面においては、生産効率の向上や経費の削減など徹底したコストダウンに取り組まれましたが、販売数量の大幅な減少により、営業利益も21億8千4百万円と前期比51.1%減少、経常利益も20億9千3百万円と前期比53.8%減少となり、当期純利益も投資有価証券評価損を特別損失に計上しましたので、7億4千5百万円と前期比70.1%減少いたしました。

企業集団の対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、景気回復に向け各国政府は過去最大規模の経済対策を計画していますが、欧米の景気低迷、中国など新興国の経済成長の鈍化などから、景気の回復には時間がかかるものと考えられます。また、原油・ナフサなどをはじめとする原燃料価格や為替の動向も流動的であることから、当社グループを取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続くことが予想されます。

このような状況のもと、当社グループは、中期経営計画『GLOBAL GROWTH-10』の2年目を迎え、中期的視野に立った安定的成長への基盤強化を行い、海外展開の進展、アライアンスの推進、グループの効率的経営の運営等を実施し、競争力のある企業構造に変革してまいります。また、足元の急激な経営環境の悪化に対処すべく、市場に対応した生産体制の構築、設備投資の厳選、徹底した経費の削減など収益改善のための諸施策にも積極的に取り組んでまいります。

また、当社グループは、企業の社会的責任を重視し日々の事業活動において法令遵守に積極的に取り組み、内部統制システムを強化しコンプライアンス体制の一層の充実を図り、社会に信頼される企業グループを目指してまいります。

環境・安全と製品の品質の確保につきましても、レスポンス・ケア活動とISO活動を中心に万全を期すとともに、環境負荷低減のために省資源・省エネルギー活動に積極的に取り組み、地球環境と調和した企業の発展を図ってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

企業理念

1. 私たちは化学を中心とする事業を通じてより豊かな社会の実現に貢献します
2. 私たちは世界に信頼される技術と製品を創造します
3. 私たちは情熱と誠意をもって行動します

基礎化学品

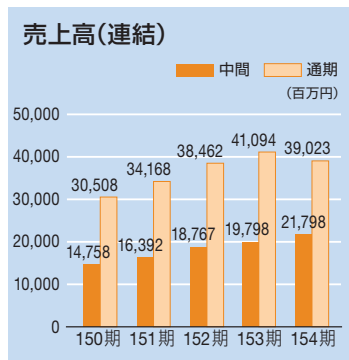
売上高：390億2千3百万円 5.0%減少

かせいソーダは、期後半からの急激な景気悪化の影響を受け、販売数量は減少しましたが、原燃料価格の上昇に対応した価格改定および国際市況の高騰により、売上高は増加しました。

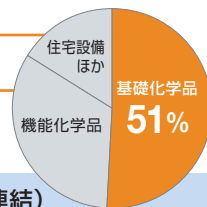
かせいカリは、販売数量は減少しましたが、原燃料価格の上昇に対応した価格改定により、売上高は増加しました。

エピクロルヒドリンは、期前半は堅調に推移しましたが、期後半は主力需要先であるエポキシ樹脂ユーザー向けの販売数量が大幅に減少し、需給バランスの悪化による価格下落もあり、売上高は減少しました。

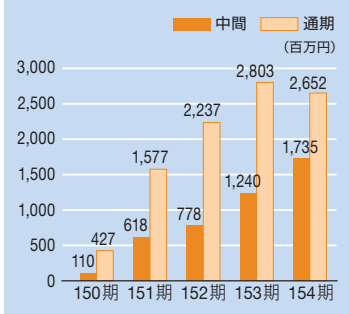
以上の結果、基礎化学品の売上高は、390億2千3百万円と前期比5.0%の減少となりました。



売上高構成比



営業利益(連結)



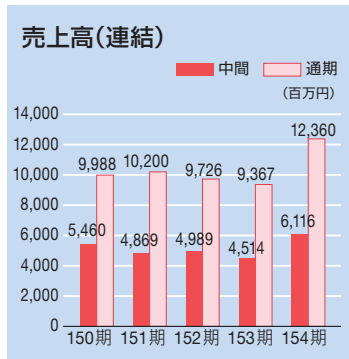
住宅設備その他

売上高：123億6千万円 31.9%増加

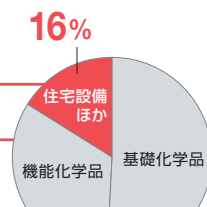
化粧板等のダップ加工材は、住宅着工件数の減少などにより需要が落ち込みましたが、生活関連商品が好調に推移したため、売上高は大幅に増加しました。

エンジニアリング部門におきましては大型プラント工事の完工はありましたが、国内企業の設備投資減少の影響を受け、売上高は減少しました。

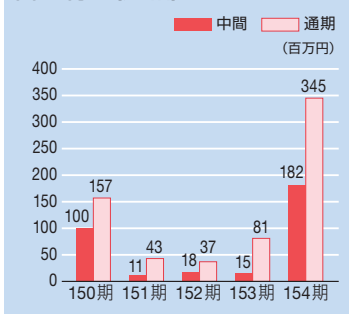
以上の結果、住宅設備ほかの売上高は、123億6千万円と前期比31.9%の増加となりました。



売上高構成比



営業利益(連結)



機能化学品

売上高：253億4千3百万円 8.7%減少



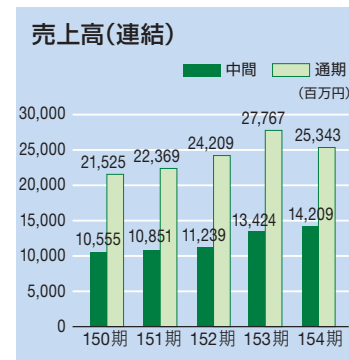
尼崎工場

エピクロルヒドリンゴムは、期前半は自動車用途向け、事務機器用途向けともに順調に推移しましたが、期後半は販売数量が大幅に減少し、急速な円高進行もあり、売上高は減少しました。

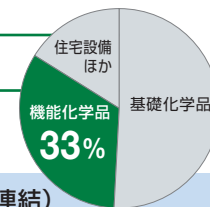
ダップ樹脂は、期前半は国内販売、輸出ともに堅調に推移しましたが、期後半は大幅に販売数量が減少し、売上高は減少しました。ダップモノマーは、需要が落ち込む中、米国向けはシェアの獲得で販売数量を維持しましたが、円高の進行もあり、売上高は減少しました。

省エネタイヤ用改質剤は、新車市場低迷を受けて国内主要タイヤメーカーが減産した影響により、販売数量は減少しましたが、原燃料価格の高騰を受けて価格改定を実施したことから、売上高は増加しました。

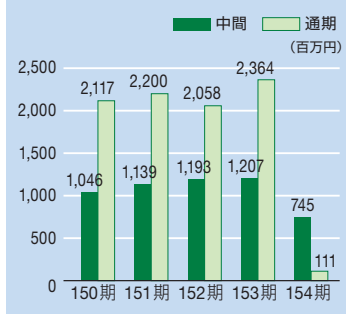
アリルエーテル類は、欧米への電子材料向け輸出が大幅に減少し、売上高は減少しました。



売上高構成比



営業利益(連結)



液体クロマトグラフィー用シリカゲルは、米国のカラムメーカー向けは堅調に推移し、アジア向けも販売数量増となりましたが、欧州での医薬品精製用途および日本国内の分取用途向けが低調に推移しましたので、売上高は減少しました。

医薬中間体は、上市済み医薬品向けの販売は順調に推移し、子会社化したサンヨーファイン株式会社の売上高も加わりましたが、臨床試験中の医薬中間体の開発および上市のスケジュールが遅れたため、売上高は減少しました。

酸化イリジウム電極は、自動車業界や家電業界の大幅減産の影響を受け、鋼板めっき向けを中心に販売数量が減少し、売上高は減少しました。

以上の結果、機能化学品の売上高は、253億4千3百万円と前期比8.7%の減少となりました。

展示会

■ チャイナコート2008

2008年11月26日～28日、中国広東省広州において「第13回中国国際塗料展 CHINA COAT 2008」が開催されました。

これは1年に1回、上海と広州で交互に開催され、世界中から多くの企業が出展している中国最大の塗料・塗装関連のビジネスショーです。

当社はアリルエーテル類、ダップ樹脂を中心とした展示ブースを出展しました。今回の出展を今後の営業活動に生かし、顧客開拓・用途開発につなげていきます。



■ INFORMEX2009

2009年1月27日～30日、米国サンフランシスコで開催された「INFORMEX2009」に出展しました。

当社パワーチェーン事業の一翼を担う「キラル医薬中間体」「液体クロマトグラフィー用シリカゲル」の主要顧客は製薬企業です。中でも米国は最大の市場であり、当社は医薬品原料メーカーと製薬メーカーが催す米国の展示会であるINFORMEXに1997年より12年間連続で出展しています。商談も年々増加傾向にあり、医薬関連事業のグローバル発展を加速させていきます。



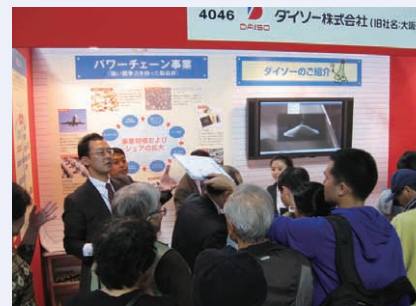
■ 関西ノムラ資産管理フェア2009

2009年2月13日～14日、京セラドーム大阪で開催された野村證券(株)主催の「関西ノムラ資産管理フェア2009」に出展しました。

今回は、個人投資家向けに親しみやすいイメージを演出し、当社ブースへの来訪者数アップを図りました。

開催期間中は多くの皆様にご来場いただき当社のPRに努めました。

今後も個人投資家向けに「化学のダイソー」を広めるため、積極的なIR活動を行っていきます。



事業強化

機能化学品

■ 医薬中間体事業の強化

2008年12月、当社医薬中間体事業の営業基盤の拡充と生産・開発体制の強化を図るため、医薬中間体の製造販売会社であるサンヨーファイン株式会社の株式を取得し、子会社化しました。

これにより、生化学分野に強みを持つサンヨーファイン株式会社と当社の技術を融合することにより、医薬中間体製品の充実を図り、事業のより一層の拡大強化を進めてまいります。



サンヨーファイン株式会社との調印式の様子

■ 電極事業の強化

2008年12月、当社グループの電極事業と電解槽周辺装置事業の相乗効果を図るため、当社電解システム事業部を子会社で化学・環境保全プラントの設計・施工業務などの事業を展開しているダイソーエンジニアリング株式会社に統合しました。これによって、部材開発からプラント設計・運転までの一貫体制によるシナジー効果を発揮し、これまで対応できなかった案件や隠れた需要の掘り起こし、中国・韓国・台湾・東南アジアを中心とした海外展開を進め、業容の拡大に努めていきます。



電極テスト機

環境にやさしい製品・技術

基礎化学品

■ 排水処理技術の活用

当社電解プラントで製造した塩素とアリルクロライドを反応させ、エピクロルヒドリンを生産しています。

エピクロルヒドリン事業で培った高い排水処理技術は当社の排水処理プロセスの環境負荷低減に大きく貢献しています。



エピクロルヒドリンプラント

住宅設備その他

■ ダップ化粧板の収益力強化

当社のダップ化粧板は、ホルマリンや有害揮発性物質を含まない安全で環境にやさしい製品です。

また、耐熱性、耐水性、耐薬品性などに優れていますので、マンションの内装部材やシステムキッチンなど住宅用建材として幅広く使用されています。

昨今、住宅着工件数の減少も顕著になっていますが、生産拠点である静岡工場のコスト競争力強化を行い、収益力の向上に努めてまいります。



静岡工場

成長が期待される環境・医薬中間体分野へ独自技術を展開させていきます。

環境

省エネタイヤ用改質剤 カブラス



地球温暖化防止対策として、CO₂の排出量削減が世界的に求められています。省エネタイヤ用改質剤カブラス配合のタイヤは、従来の乗用車用タイヤに比べて3~5%の燃費改善効果があり、CO₂の排出量削減に貢献します。また、省エネタイヤの普及は国を挙げての取り組みが始まり、今後ますますの需要拡大が見込まれています。

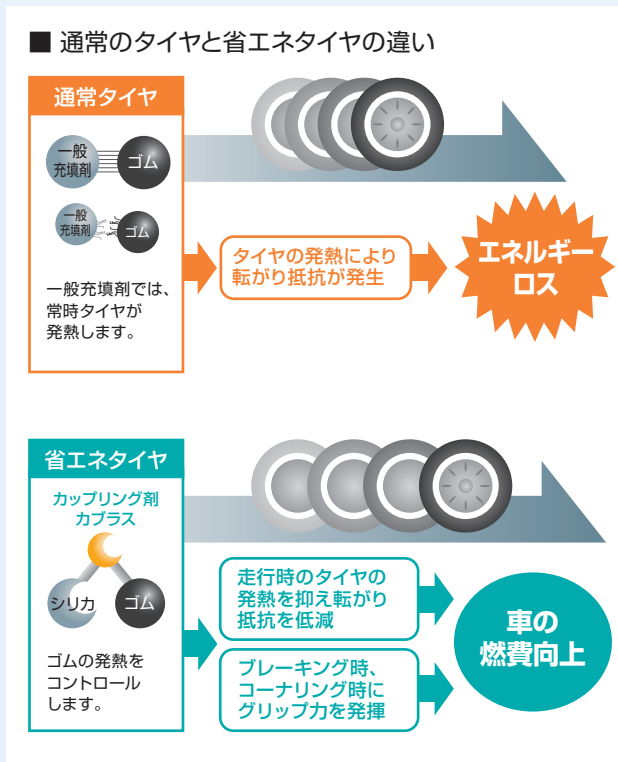
転がり抵抗の低減で省燃費に貢献

車の走行中には、様々な抵抗がかかります。その約80%は空気抵抗などで、残りの20%が、転がり抵抗(タイヤの走行抵抗)であるとの報告があります。(100km/h・定速走行時)

シリカ+カップリング剤の配合とすることで、濡れた路面での制動性が損なわれず、また、転がり抵抗を減少させることで車の燃費が改善されます。

通常のタイヤは、ゴムの強度を上げるため、補強剤としてカーボンブラックを混合しています。

省燃費タイヤはカーボンブラックに加え、シリカを混合していますが、シリカはゴム、カーボンブラックとの馴染が悪く、結合剤としてカップリング剤カブラスが使われています。



医薬中間体

医薬中間体事業を サンヨーファイン株式会社へ統合



当社グループの医薬中間体事業の生産・販売・研究開発における各活動領域において、より一層の相乗効果をはかり、さらに事業領域を拡大していくため、2009年7月1日に、当社の医薬中間体事業を100%子会社であるサンヨーファイン株式会社に譲渡し統合します。

統合後は、生産拠点の拡充により、効率的な生産を行い、国内外での拡販を積極的に展開するとともに、新製品開発のスピードアップを図り、事業拡大に注力してまいります。



	サンヨーファイン	ダイソー
生産	福井・加古川工場	松山工場
販売	国内製薬会社が主要取引先	海外中心
研究	生物化学化合物 アミノ酸合成などの 技術の融合	キラル化合物を中心 とする有機合成に強み

今後の展開
幅広い顧客ニーズに対応
国内外に販路拡大
研究開発体制の充実



サンヨーファイン
福井工場



ダイソー松山工場
医薬中間体プラント

連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

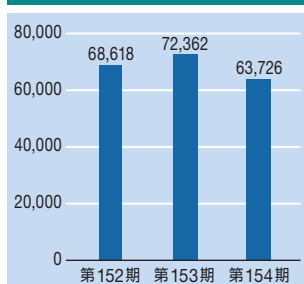
科目	前連結会計期末 (平成20年3月31日現在)	当連結会計期末 (平成21年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	38,825	32,092
固定資産	33,537	31,633
有形固定資産	18,962	19,244
無形固定資産	1,180	970
投資その他の資産	13,394	11,418
資産合計	72,362	63,726
負債の部		
流動負債	23,820	18,188
固定負債	15,726	13,122
負債合計	39,546	31,311
純資産の部		
株主資本	31,378	31,913
評価・換算差額等	1,403	437
新株予約権	34	64
純資産合計	32,816	32,414
負債純資産合計	72,362	63,726

連結損益計算書(要約)

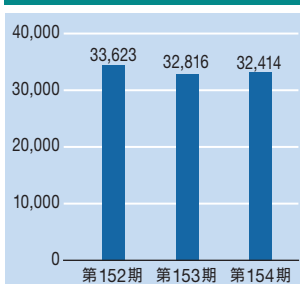
(単位:百万円)

科目	前連結会計期間 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計期間 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
売上高	78,229	76,726
売上原価	63,377	64,377
売上総利益	14,851	12,349
販売費及び一般管理費	10,383	10,164
営業利益	4,468	2,184
営業外収益	455	376
営業外費用	391	467
経常利益	4,532	2,093
特別利益	—	398
特別損失	315	1,221
税金等調整前当期純利益	4,217	1,270
法人税、住民税及び事業税	1,597	304
法人税等調整額	130	220
当期純利益	2,489	745

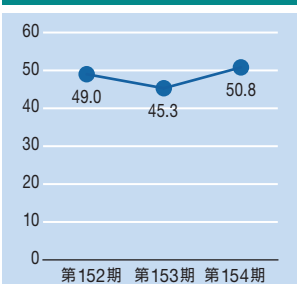
総資産 (単位:百万円)



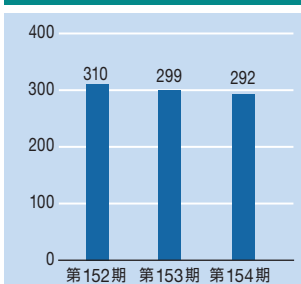
純資産 (単位:百万円)



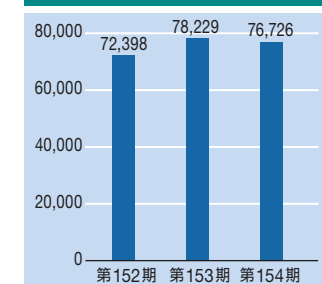
自己資本比率 (単位:%)



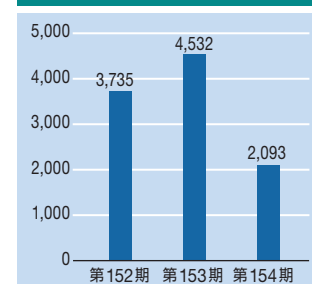
1株当たり純資産 (単位:円)



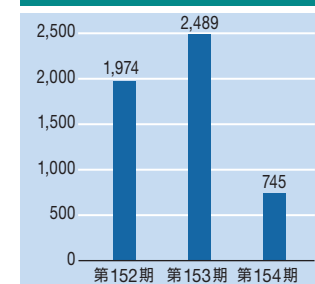
売上高 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



当期純利益 (単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	当連結会計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
	営業活動によるキャッシュ・フロー	3,404
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,155	△4,290
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,798	△787
現金及び現金同等物に係る換算差額	△79	△229
現金及び現金同等物の増減額	1,968	△1,089
現金及び現金同等物の期首残高	3,557	5,527
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	—
現金及び現金同等物の期末残高	5,527	4,437

連結株主資本等変動計算書 当連結会計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

(単位:百万円)

項目	株主資本					評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ	評価・換算差額等 合計		
平成20年3月31日残高	10,644	9,156	11,754	△177	31,378	1,403		1,403	34	32,816
連結会計期間中の変動額										
新株の発行	237	237			474					474
剰余金の配当			△661		△661					△661
当期純利益			745		745					745
自己株式の取得				△29	△29					△29
自己株式の処分		0		5	5					5
株主資本外の項目の連結 会計期間中の変動額(純額)						△960	△5	△965	29	△936
連結会計期間中の変動額合計	237	237	83	△23	534	△960	△5	△965	29	△401
平成21年3月31日残高	10,882	9,394	11,838	△201	31,913	442		437	64	32,414

(注)連結貸借対照表、連結損益計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結株主資本等変動計算書に記載の金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

ダイソーグループのセグメントと主な製品

セグメント	主要製品
基礎化学品	かせいソーダ、塩酸、液化塩素、塩素ガス、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダ、塩素酸ソーダ、かせいカリ、水素ガス、エピクロルヒドリン、アリルクロライド、ジクロロプロペン、塗料原料、接着剤原料 など
機能化学品	アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、省エネタイヤ用改質剤、液体クロマトグラフィー用シリカゲル、光学活性体、医薬中間体、酸化イリジウム電極、レンズ材料、感光性樹脂 など
住宅設備ほか	ダップ加工材、住宅関連製品、健康食品、化学薬品の輸送・貯蔵、化学プラント・環境保全設備建設、蛍光管のリサイクル など

ダイソー物語②

1946~1967<昭和21年~昭和42年>

1915年の創業以来、わが国の食塩電解ソーダ工業のパイオニアとして、革新的な技術を基盤に成長し続けてきたダイソー(株)。2015年に100周年を迎えるにあたって、株主のみなさまに当社へのご理解をさらに深めていただきたく、創業から現在までを振り返る「ダイソー物語」を、全6話にわたりお届けしています。

第2話となる今回は、戦後の混乱を経た後、着実に業容を拡大し、新たな分野を積極的に開拓していった歴史を振り返ります。

松山工場の建設

昭和24(1949)年に、全塩化物の公定価格が廃止され、その翌年には品不足と相まって2~3倍の高値を呼びました。また、朝鮮動乱、さらには、かせいソーダの公定価格の廃止などを受け、化繊業界は好調に推移。これにより、かせいソーダの市況もますます活況を呈し、昭和27(1952)年9月、当社は、さらなる安定供給を目的として、松山市に新工場を建設しました。



松山工場(建設当時)

神武景気により増産体制を構築

昭和30(1955)年、同31(1956)年は、神武景気といわれるほどに日本経済は伸展。当社も、関連産業の好調により、かせいソーダ、塩化物製品の需要が増大したことを受け、各工場において増産計画を遂行しました。



大門基地(昭和29年竣工)
[平成9年廃止]

さらに、製品の販売拡充を図るため、昭和31(1956)年8月に大商商事(株)を設立。一般工業製品の取扱いを主体に営業を開始しました。以来、化学工業製品に加え、保険業務、化工機器、OA機器など、着々と営業業務を拡大していきました。

「電解液脱塩素技術」を開発

昭和30(1955)年、当社は「電解液脱塩素技術」の研究開発を開始し、昭和32(1957)年8月、その工業化に成功しました。コスト面でも優れているこの技術は、同業各社が競って採用。高度成長時代の石油化学工業への塩素供給源である水銀法電解槽の大規模化に必要な「大電流・高電流密度」の運転を可能にし、ソーダ工業界の近代化に大きく寄与しました。

研究所を新設し、有機化学分野へ進出

当時の企業形態は、外部環境の変化に対応するなかで、原料から製品、製品から関連産業へと、有機的・多角的に発展しつつありました。そこで当社は、独自の特殊技術を確立するとともに、市場ニーズに適応した応用技術を開発することで企業体質の改善を図るとともに、有機化学分野への進出を目指し、昭和36(1961)年3月、研究所を新設しました。



研究所本館(昭和36年)

ダップ樹脂の開発

昭和37(1962)年、松山工場内に熱硬化性樹脂であるダップ樹脂製造設備を新設しました。当時、ダップ樹脂の高機能性が注目される中、当社では、製造コストを大幅に低減させるとともに、従来の有機過酸化物を使用しない画期的な重合法を確立しました。同時に、連続的にモノマーを抽出する方法の工業化等にも成功。製造コストが安く、品質も安定しているダップ樹脂は、日本のみならず世界各国でも好評でした。また、国内外の同業他社が相次いで生産を中止したことから、その後長年にわたり世界で唯一のダップポリマーメーカーとなりました。



当時のダップ樹脂応用製品

次回、第3話では、1968~1976<昭和43年~昭和51年>の歴史を振り返ります。

株式の状況

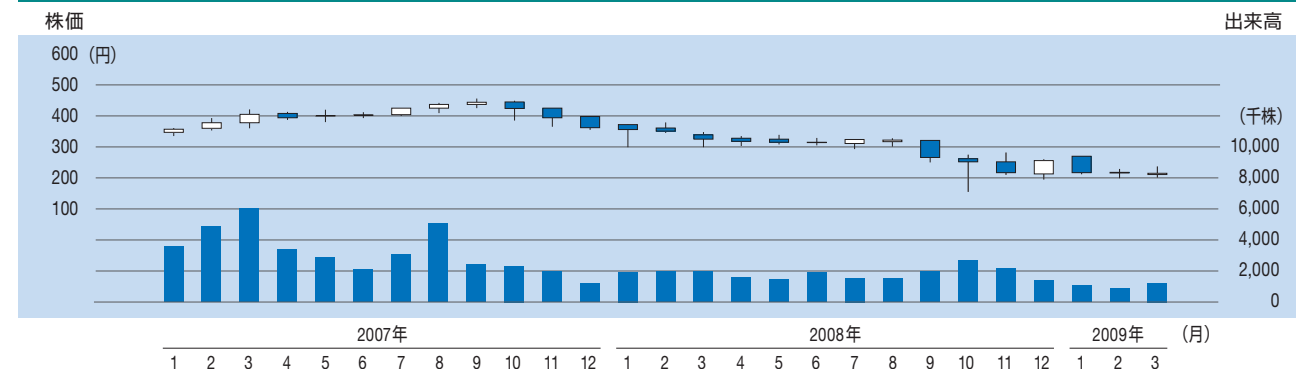
発行可能株式総数 ----- 300,000,000株
 発行済株式総数 ----- 111,771,671株
 株主数 ----- 8,374名

大株主一覧(上位10名)

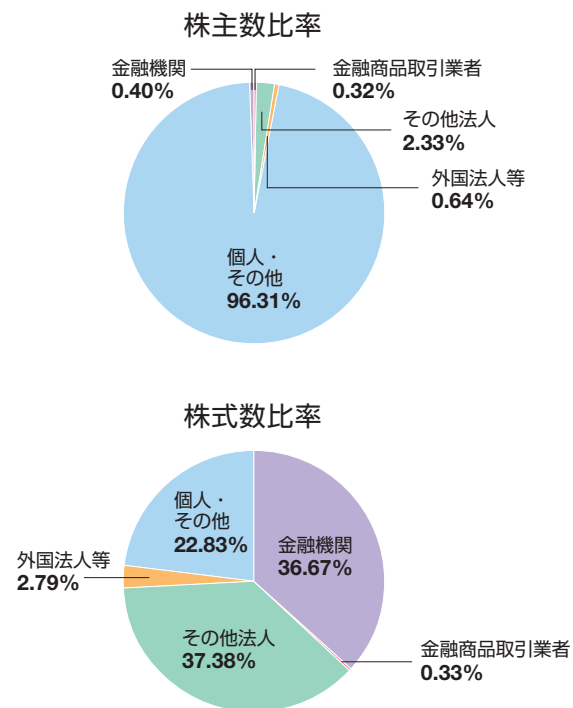
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社ワイエムシィ	7,658	6.90
帝人株式会社	5,893	5.31
日本興亜損害保険株式会社	4,692	4.23
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,684	4.22
株式会社みずほコーポレート銀行	4,348	3.92
株式会社池田銀行	4,240	3.82
株式会社福岡銀行	3,813	3.43
株式会社伊予銀行	3,744	3.37
日本生命保険相互会社	3,542	3.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	3,487	3.14

(注)出資比率は、発行済株式の総数から自己株式(846,955株)を控除して計算しております。

株価および出来高の推移



株主分布状況



(平成21年3月31日現在)

創 立 ----- 大正4年10月26日
 資 本 金 ----- 108億8千2百万円
 連結従業員数 ----- 745名

事業所

本社
 〒550-0011 大阪市西区阿波座1丁目12番18号 ☎(06) 6110-1560
 東京支社
 〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 ☎(03) 3537-8741
 研究所
 〒660-0842 尼崎市大高洲町9番地 ☎(06) 6409-0791
 小倉工場
 〒803-0838 北九州市小倉北区高見台8番1号 ☎(093) 561-6681
 尼崎工場
 〒660-0842 尼崎市大高洲町11番地 ☎(06) 6409-1581
 松山工場
 〒791-8525 松山市北吉田町77番地 ☎(089) 972-0131
 水島工場
 〒711-0934 倉敷市児島塩生字新浜2767番13号 ☎(086) 475-0331
 静岡工場
 〒439-0031 菊川市加茂1110番11 ☎(0537) 36-6781
 デュッセルドルフ事務所
 ドイツ連邦共和国デュッセルドルフ市インマーマン通り13 ☎49-211-353146
 アメリカ事務所
 アメリカ合衆国ニュージャージー州フォートリー市
 2エグゼクティブドライブ スイート850 ☎1-201-292-1850
 上海事務所
 中華人民共和国上海市長寧区遵義路100号 ☎86-21-6237-1651
 (虹橋上海城)

子会社等の状況

	会 社 名	主要な事業内容
国内	ダイソーケミカル(株)	化学工業薬品および機能化学品等の販売
	ダイソーエンジニアリング(株)	各種化学プラントおよび環境保全設備の設計、施工、請負、技術指導
	(株)ジェイ・エム・アール	使用済み蛍光管の再資源化およびリサイクル事業
	DSロジスティクス(株)	物流事業
	サンヨーファイン(株)	医薬中間体の製造販売
	DSウェルフーズ(株)	健康食品の製造、加工販売
海外	岡山化成(株)	塩素、かせいソーダ、水素および誘導品の製造
	大曹化工貿易(上海)有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
	台湾大曹化工股份有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
	DAISO Fine Chem USA, Inc.	シリカゲルの販売、カラムの製造販売
	DAISO Fine Chem GmbH	シリカゲル、医薬中間体の販売

取締役および監査役

(平成21年7月1日現在)

地 位	氏 名
代表取締役社長	佐 藤 存
専 務 取 締 役	橋 本 明
常 務 取 締 役	山 下 光 一
常 務 取 締 役	上 出 修
常 務 取 締 役	柴 野 美知朗
取 締 役	竹 尾 恒 行
取 締 役	酒 井 貴 明
取 締 役	古 川 喜 朗
取 締 役	渡 邊 秀 明
取 締 役	門 間 政 明
取 締 役	岩 堀 政 樹
取 締 役	阿 部 哲 生
取 締 役	辻 田 正 胤
取 締 役	内 堀 貴 弘
常 勤 監 査 役	浅 岡 憲 之
常 勤 監 査 役	瀬 川 恭 史
社 外 監 査 役	中 務 嗣 治 郎
社 外 監 査 役	鳥 家 秀 夫